

同窓会会報

第3号

いそぐな休むな

会長 玉津徳太郎



昭和四十八年度は、本校創立十五周年に当り、桜陵祭を中心、それぞれの集団が記念行事を開催したが、いずれも反省と前進の決意を表明する意義ぶかいものであった。およそ、一つの学校の真価は、その学校の教育方針による校風・在校生の勉学意欲・卒業生の活躍によって評価されるのが社会通念である。この規準からみると、本校も創立十五年にして、「自由と規律」の校風・在校生の生活様式と勉学意欲において先輩が残した、よき伝統をひきつぎ年々向上の途をたどっているように思われる。

昭和四十八年度は、本校創立十五周年に当り、桜陵祭を中心、それぞれの集団が記念行事を開催したが、いずれも反省と前進の決意を表明する意義ぶかいものであつた。およそ、一つの学校の真価は、その学校の教育方針による校風・在校生の勉学意欲・卒業生の活躍によって評価されるのが社会通念である。この規準からみると、本校も創立十五年にして、「自由と規律」の校風・在校生の生活様式と勉学意欲において先輩が残した、よき伝統をひきつぎ年々向上

とを記憶するが、その後の連絡によると、それぞれの支部が、本校卒業生としてのプライドをもって、相交わり哀歎を共にしているとのこと、まことに同慶に堪えない次第である。その同窓の結集力は、母校十五周年記念行事に端的に示されたことは関係者一同の認めるところである。また、支部結成後も、年々の大卒入試や就職に量質とも好成績をあげている。さらにクラブ活動も対外的に注目に値する成果をあげ、ある。これらの活動や業績は、いずれも、先生方の研究心と教育愛による高度な指導と在校生の意欲的努力の継続によるもので、この気風がある限り、本校の将来には明るいものがあると予見される。

これに対し同窓会も昭和四十七年度で、会員数、万を越えることになり、それぞれ社会で活躍することになった。ことに地元に職種行事が定期的に行われる、あるいは臨機に運営されるようになつた。その活動資金についても、長期的理想的実現への蓄積と短期的当面目標への適正支出が協定され、堅実な歩みを続けていた。

こうした先輩の活動は後に続く在校生には無言の活模範になるものと確信する。その一例

る。その心意氣は本年の桜陵祭統一テーマ・「伝統と躍進」に示されている。また学業成績においても、年々の大卒入試や就職に量質とも好成績をあげている。さらにクラブ活動も対外的に注目に値する成果をあげ、ある。これらの活動や業績は、いずれも、先生方の研究心と教育愛による高度な指導と在校生の意欲的努力の継続によるもので、この気風がある限り、本校の将来には明るいものがあると予見される。

母校十五周年記念行事に端的に示されたことは関係者一同の認めるところである。また、支部結成後の動向をみると、定期役員会・総会による行事決定、予算・決算の審議決定、新入会員歓迎会、名簿作成、同窓会報の定期刊行、支部行事の運営、母校生徒クラブや各種団体の後援などの各種行事が定期的に行われる。その活動資金についても、長期的理想的実現への蓄積と短期的当面目標への適正支出が協定され、堅実な歩みを続けていた。

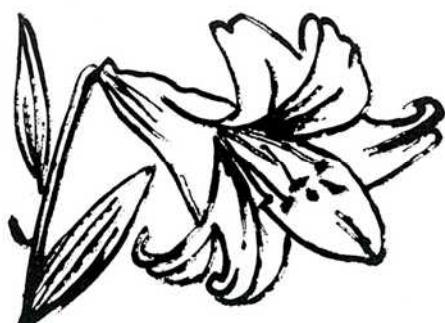
たとえ、時に相会する者の数は少なくとも、相会し、相談し、明日への活力を感じ合うところに、その精神がある。けつして量的ではなくやかさや、物的欲望充足の場ではない。細くとも長く、いそがず休まず、定期会合を続け、臨機の処置がとれ、同窓生相互の絆が次第に太く、たくましくなるところに本質がある。この意味で諸君のものとして本校同窓会が一層充実発展することを祈つてやまない。

五周年を期して、終身会費の増額を決定したが、その議が生徒会役員会にはかられると、論議の結果、賛成決議となり、職員会議も承認し、昭和四十八年度卒業生から実施ということになった。これなどは先輩・後輩の連繋の実を物語る好例であろう。

同窓会の特質は、なんといわれようと、母校の教育精神を中心とする友愛集団である。したがつて同窓会の各種の活動は、この母校の動向をみると、定期役員会・総会による行事決定、予算・決算の審議決定、新入会員歓迎会、名簿作成、同窓会報の定期刊行、支部行事の運営、母校生徒クラブや各種団体の後援などの各種行事が定期的に行われる。その活動資金についても、長期的理想的実現への蓄積と短期的当面目標への適正支出が協定され、堅実な歩みを続けていた。



「沙の希望、いや高くいや高く」



同窓会細胞を

生かしつづけよう

支部だより

一年を顧みて

幹事長 高田菊平



る。問題の生じたときを中心として思考し行動しているのであって常日頃からというわけにはいかない。しかしその時々関連的にも頭に浮かんてくることにはまちがない。

昭和四十八年度で母校が創立十五周年をむかえた。まずその発展に対しても同窓生の一人として喜びにいたえない。

この十五周年記念に同窓会として、母校が企画した「希望の森」記念特集号を成功させる為に、各支部を通して、大いに支援願つた結果、その目的を十分に達成できることをよろこびをもつて御報告したい。この一年我々として目立った活動もできずにすごして来たが、その中において我々が初めて、各支部の組織を活用して成しえたことの意義は大きなものがあつた。

このような活動の中で、私は最近ひとつ的基本的な考え方をもつていた。おのおの現在の年令において活躍するには時間が短かすぎるのである。自分もふりかえら考えて、我々がまだまだこの分野において活躍するには時間が短かすぎるのである。自分もふりかえてみて毎日を仕事に忙殺されて、いる中で、同窓会のことについて考へる時間は実際に少ないものであ

る。この関連的に頭に浮かぶということが大切であると思う。つまり同窓会細胞は常に生きているのである。それを育ててゆくにはやはり長い年月をかけてじっくりと歩みづけてゆくことが最高の方法であろう。

その為に何をなすべきかと問われると私は今まで進めて来た小さいサークルからの出発はまちがいのない方針であったと思う。できるだけ機会をみつけて会員相互の親睦を深めてゆくことにつきると思ふ。

昨年十月より始まつた石油ショックは会員の皆様の生活の中にも多大なえいきょうを与えていたことで、それは日本の経済を一朝に急変せしめた感があります。直面する問題に対しても全力をあげて戦つてゆかなければならぬ。そして、その生活の中で会員のそれぞれが、いつまでも同窓会に対する細胞をそれが今は単細胞であることを願つても生かしつづけることを願つこともあります。しかし、良き

小田原支部

支部長 川口功一（三期）

四十八年度同窓会々報發行により、当支部の現状をお知らせすると共に、今年度の第十四期卒業生が私達の同窓生として誕生された事をお喜び申し上げます。私達の小田原支部も発起以来、三年目を経て、三期、四期、五期の卒業生が大学時代に作つておられた“集い”から通算すると一昔前にもなる。

現在も、この仲間は、互いに良き先輩、後輩として又、小田原支部同窓会の強い協力者として活躍している。毎号同じような文面になつてしまふ事を最初におわび致します。

卒業生も増え年月も経てくると皆様の住所も変って、郵便物等の返送が多くなっております。又、小田原支部の新しい名簿を作成すべく準備しております。方法として各期別に調査致したく思つておりますので、ご自分の友人で後日、お願いした調査名簿と異なつたものが、ございましたら、よろしくお願い致します。

田方支部

支部長 植田正年（一期）

四八年三月伊豆長岡駅前勝珍軒にて支部総会が行なわれた。

過去三回の総会、支部幹事会、支部行事を行なつてきた。しかし年々出席者が減少し、今後の問題点を残している。以後支部長植田正年氏を中心に支部の活動方針を検討した結果、次のようになつた。

同窓会は精神的団体であるので利益を得る事を目的としない。学年クラスが違つて顔も知らなかつた

先輩後輩の協力を得て、小田原支部も、少しづつでも若いエネルギーを吸収して、より充実した、より良き仲間の“集り”にしてゆきたいと希望しております。

追記

先輩後輩の協力を得て、小田原支部も、少しづつでも若いエネルギーを吸収して、より充実した、より良き仲間の“集り”にしてゆきたいと希望しております。

熱海支部

支部長 高井常光（一期）

熱海支部も発足後、はや三年が過ぎようとしている。親睦会も何度か開き初期の目的をはたした現在、会員相互の意識が高まつてきただ事はたのもしい限りである。

しかし反面、組織化に始まつた第一期も「さざ波」的で、これからは能動的に参加意識を抱かなければ高度のものとは言ひがたい。

最終的には、個人の心のあり方における体質改善が必要だが、新会員共々、顔と心の触れ合いが、包み込まれ、発足時に燃え上がつた野火が、たとえ灰になろうとも、周辺でメラメラと燃え続けるような成長となつてほしいと願つてゐる。

そのためにも、新会員十四期生の二期に突入せねばならない。

参加と理解を特に希望するしたいである。

三島支部

支部長 杉本博司(一期)

現代は複雑な社会機構の中で、経済、科学、文化等が急速なテンポで進展を続いている。我々はこうした社会の中で、いろいろな集団へ加入したり、知らず知らずのうちに入り込んでいたりする。人生を過していくその過程において、楽しみ、喜んでいる間はよいが苦しみ、悩み、ともすれば孤独に陥り活路を見出しきれどもできない場合も少なくない。この孤立しがちな社会風潮の中で健全な心身を推持し、明日を明るく生きていくにはよりよい人間関係が最も重要であるといえよう。それは相互理解と信頼により、共に協力しかし、一人一人が成長し、そして健全なる生活を送り、未来への発展に必要なエネルギーを貯える形態こそ同窓会であるといえよう。

何處でも見られる旧来の同窓会は、専ら会員相互の精神的、肉体的向上を目的として社会一般の利益を目的としない結合体である。すなわち、そこでは旧交を温め、相互信頼を確認する意味をもち、一同会し酒宴、旅行、リクリエーションを催すに過ぎない。それもクラブ单位から学年、全卒業生の同窓会まで様々であるが、ごく部分的な同窓生、級友を除き社会的、互扶助的な連繋のある同窓会は皆

無に近いであろう。我が同窓会も現段階では全く同様である。そこで我が同窓会はこのような形から一步前進し、行事としての酒宴、旅行、リクリエーションの他に、

学究（政治、経済その他の講習会等）、文化（定期演奏会）、社会一般に対する慈愛、奉仕活動（各種、福祉事業、基金、募金等）により、意義ある素晴らしい同窓会が形成されると私は信ずる。

として、前記のような組織、機構が確立、フルに力が發揮できる時代まで、およそ四半世紀かかるであろう。その時こそ現状の学校あつての同窓会から、同窓会あつての学校ありの域に達するのではないかろうか。この事柄は権力的な対抗性というべき卑劣なものではなく相対する両輪の如く双方未来へ進んで躍動すべきものであり、そこには已ずから輝やかしい伝統と

昭和四十六年四月他支部に先がけて結成されたものである。当時は初代支部長佐久間哲夫氏（一期）が苦労しながらも名簿の整理とともに、盛大に結成式をあげ多くの者が待ち望んでいたものであつた。そして今日に至る三年間地味ながらも、活動を行なつて来た。現在は一人でも多くの方が参加できるよう組織の手直しと前年より継続して名簿の整理を中心に行なつてゐる。特に組織は単に沼津支部といえど広域であるため部内を細分し三・四町内を単位として横と縦の関係を密にするよう活動を進めている。

また四十九年度の総会並びに新入会員歓迎の会を四月上旬に開催の予定でありますので、次第である。

親が子にすすめ、子も親に進んで日大三島高校へ入学したいといふ意識が暗黙のうちに存在するよう学校としたいものである。

沼津支部

支部長 高木弘之(一期)

沼津支部は本会一〇支部の中にあっても会員数は一番多くその数も一五〇〇余名程にまでになり、

無に近いであろう。我が同窓会も現段階では全く同様である。そこで我が同窓会はこのような形から旅行、リクリエーションの他に、

学究（政治、経済その他の講習会等）、文化（定期演奏会）、社会一般に対する慈愛、奉仕活動（各

種、福祉事業、基金、募金等）により、意義ある素晴らしい同窓会が形成されると私は信ずる。

として、前記のような組織、機構が確立、フルに力が發揮できる時代まで、およそ四半世紀かかるであろう。その時こそ現状の学校あつての同窓会から、同窓会あつての学校ありの域に達するのではないかろうか。この事柄は権力的な対抗性というべき卑劣なものではなく相対する両輪の如く双方未来へ進んで躍動すべきものであり、そこには已ずから輝やかしい伝統と

昭和四十六年四月他支部に先がけて結成されたものである。当時は初代支部長佐久間哲夫氏（一期）が苦労しながらも名簿の整理とともに、盛大に結成式をあげ多くの者が待ち望んでいたものであつた。そして今日に至る三年間地味ながらも、活動を行なつて来た。現在は一人でも多くの方が参加できるよう組織の手直しと前年より継続して名簿の整理を中心に行なつてゐる。特に組織は単に沼津支部といえど広域であるため部内を細分し三・四町内を単位として横と縦の関係を密にするよう活動を進めている。

また四十九年度の総会並びに新入会員歓迎の会を四月上旬に開催の予定でありますので、次第である。

親が子にすすめ、子も親に進んで日大三島高校へ入学したいといふ意識が暗黙のうちに存在するよう学校としたいものである。

富士宮支部

支部長 小林修篠

母校創立十五周年の記念すべき年に、卒業式を迎えた諸君、支部同窓会員心から「おめでとう」とお祝い申し上げます。今日こうして、日本大学三島高校同窓会入会式を迎えた事は、もう同窓会員であり、卒業生だと言つても過言ではないでしょう。そして、富士宮芝川地区の諸君は同事に富士宮支部会員に属する事になるのです。諸君と同じように、朝早くから

秋のアドウ狩のバス旅行の計画も、どうとう実施に至らなかつた。仕事に追われた幹事たちの怠慢もあつたが、現実に障害は多く、現活動展開ができるよう、支部会員の協力と熱意を求めるものである。

富士宮支部は、一期生のため私が支部長といふ大役をおおせつかり、ヨチヨチ歩きではあります、三ヶ月に一度幹事会を開き、四月には新入会員歓迎会を開き、ハイキングやキャンプ、時にはお酒など入れた親睦会等の行事を行い、社会の一歴車となつて、母校の教育目標である「自由と規律」の同じ精神で育つた同窓生が、時おり相会して、当時の精神や友情を呼びもどしま

だが、なかなか根は伸びてゆかな

い。まだ忙がしい年代であろうか。しながら何もせずに又終わつてしまいそうだ。ただ母校の十五周年記念行事の「希望の森」の雑誌へ

際、副支部長以下、幹事の努力によつて連絡をとり十支部中、最も多い広告掲載希望者を得た。富士宮支部を始め、あちこちに兄弟が誕生し、我が支部も負けずにうぶ声をあげたのが十一月十一日です。昭和四十六年に、沼津支部を作り、諸君の入会を心から歓迎し、力強く思つています。そして同窓会の主旨に従い、富士宮にも支部を作り、諸君の入会を心から歓迎し、力強く思つています。そして同窓会の主旨に従い、富士宮にも支

一昭和49年度一 新入同窓会員を迎えて

歓迎のことば

副幹事長 野田昭二朗

第14期生の卒業に対し同窓生一同、御祝詞を申し上げます。母校も15年の歳月を経て発展の一途であると知り、第14期生の入会とともに喜び力強く感ずるものであります。同窓会もすでに12,000余名の会員をもち、新たに1500余名の会員を迎えて、より一層の発展を期して活動を続けてゆく決意であります。私達は社会の中にあっていくつかの集団に所属しその構成員として種々の働きと目的をもっていることは承知の通りであります。家庭はもとより地域社会においても、また自分の趣味や利害にあっても同様である。そこで同窓会という一つの集団を考えて欲しいものです。とかく精神団体たるものは縁遠いものと感せられがちである。このことから同窓会も限られた者のみの集団として考えられたのでは会の意味は無に等しくなってしまう。同窓会は会員共通の条件、すなわち同じ学年を絶え立ったという点で他の集団に優る一面がある。私達はこれを生かして本会や母校の発展を、そして各人の成長を実現したいものである。とにかくも、高校時代の全ては脳裡に深く強く残るものである。それが後の思い出となる。人は喜びにつけ悲しみにつけ思い出に浸る。また見知らぬ者同志であっても同窓であることが友好の絆を生む。大切にしたいものである。ともあれ、第14期生の入会を心より歓迎致します。

男子代表

井上博文

新入会員挨拶

女子代表 高橋史乃

いよいよ高校生活にも終止符を打つときがやってきました。今、私たちは、この日大三島高校を卒業する者は大学へ、またある者は社会へとはばたこうとしている。この三年間、高校という人生の一期、私にとっていつたいなんだよ。一言でいえば、形式だけの高校生活だったと思う。満開の花の下で迎えた入学式。胸が高鳴り、希望に満ちあふれたはずなのに、期待は無残にもうらぎられたのです。高校生活において私の存在はただの傍観者にすぎなかつたからです。あらゆるもの、皆、よき指導者であった先生方の開いて下さった道をためらいもなしに進んだのです。自己をみづめ、死ぬほど自分がいやになつたのです。同窓会の諸先輩方に幸あれと祈ること

同窓会が単にリクレーションや窓口ではなくして、今まで卒業された先輩方の良い伝統を継続することにあるようだ。しかししながら実際にも私は会員としての自覚というものを堅苦しく考えてみたくはない。そこでどのようにに考えるかと言えば、同窓会は楽しくあつてしかるべきものの、つまり広くクリエーション性を帶びていると言えるだろうが、それだけの物ならば他校の同窓会と何ら差異を認めないものになります。これだけの大きな人数をかかえ、その組織たるや驚くほどあります。

同窓会が單にリクレーションや窓口ではなくして、まさに卒業された先輩方の良い伝統を継続することにあるようだ。しかししながら実際にも私は会員としての自覚というものを堅苦しく考えてみたくはない。そこでどのようにに考えるかと言えば、同窓会は楽しくあつてしかるべきものの、つまり広くクリエーション性を帶びていると言えるだろうが、それだけの物ならば他校の同窓会と何ら差異を認めないものになります。これだけの大きな人数をかかえ、その組織たるや驚くほどあります。

いよいよ高校生活にも終止符を打つときがやってきました。今、私たちは、この日大三島高校を卒業する者は大学へ、またある者は社会へとはばたこうとしている。この三年間、高校という人生の一期、私にとっていつたいなんだよ。一言でいえば、形式だけの高校生活だったと思う。満開の花の下で迎えた入学式。胸が高鳴り、希望に満ちあふれたはずなのに、期待は無残にもうらぎられたのです。高校生活において私の存在はただの傍観者にすぎなかつたからです。あらゆるもの、皆、よき指導者であった先生方の開いて下さった道をためらいもなしに進んだのです。自己をみづめ、死ぬほど自分がいやになつたのです。同窓会の諸先輩方に幸あれと祈ること

同窓会が單にリクレーションや窓口ではなくして、まさに卒業された先輩方の良い伝統を継続することにあるようだ。しかししながら実際にも私は会員としての自覚というものを堅苦しく考えてみたくはない。そこでどのようにに考えるかと言えば、同窓会は楽しくあつてしかるべきものの、つまり広くクリエーション性を帶びていると言えるだろうが、それだけの物ならば他校の同窓会と何ら差異を認めないものになります。これだけの大きな人数をかかえ、その組織たるや驚くほどあります。

いよいよ高校生活にも終止符を打つときがやってきました。今、私たちは、この日大三島高校を卒業する者は大学へ、またある者は社会へとはばたこうとしている。この三年間、高校という人生の一期、私にとっていつたいなんだよ。一言でいえば、形式だけの高校生活だったと思う。満開の花の下で迎えた入学式。胸が高鳴り、希望に満ちあふれたはずなのに、期待は無残にもうらぎられたのです。高校生活において私の存在はただの傍観者にすぎなかつたからです。あらゆるもの、皆、よき指導者であった先生方の開いて下さった道をためらいもなしに進んだのです。自己をみづめ、死ぬほど自分がいやになつたのです。同窓会の諸先輩方に幸あれと祈ること

同窓会が單にリクレーションや窓口ではなくして、まさに卒業された先輩方の良い伝統を継続することにあるようだ。しかししながら実際にも私は会員としての自覚というものを堅苦しく考えてみたくはない。そこでどのようにに考えるかと言えば、同窓会は楽しくあつてしかるべきものの、つまり広くクリエーション性を帶びていると言えるだろうが、それだけの物ならば他校の同窓会と何ら差異を認めないものになります。これだけの大きな人数をかかえ、その組織たるや驚くほどあります。

いよいよ高校生活にも終止符を打つときがやってきました。今、私たちは、この日大三島高校を卒業する者は大学へ、またある者は社会へとはばたこうとしている。この三年間、高校という人生の一期、私にとっていつたいなんだよ。一言でいえば、形式だけの高校生活だったと思う。満開の花の下で迎えた入学式。胸が高鳴り、希望に満ちあふれたはずなのに、期待は無残にもうらぎられたのです。高校生活において私の存在はただの傍観者にすぎなかつたからです。あらゆるもの、皆、よき指導者であった先生方の開いて下さった道をためらいもなしに進んだのです。自己をみづめ、死ぬほど自分がいやになつたのです。同窓会の諸先輩方に幸あれと祈ること

高校生活に終止符を打つときがやってきました。今、私たちは、この日大三島高校を卒業する者は大学へ、またある者は社会へとはばたこうとしている。この三年間、高校という人生の一期、私にとっていつたいなんだよ。一言でいえば、形式だけの高校生活だったと思う。満開の花の下で迎えた入学式。胸が高鳴り、希望に満ちあふれたはずなのに、期待は無残にもうらぎられたのです。高校生活において私の存在はただの傍観者にすぎなかつたからです。あらゆるもの、皆、よき指導者であった先生方の開いて下さった道をためらいもなしに進んだのです。自己をみづめ、死ぬほど自分がいやになつたのです。同窓会の諸先輩方に幸あれと祈ること

高校生活に終止符を打つときがやってきました。今、私たちは、この日大三島高校を卒業する者は大学へ、またある者は社会へとはばたこうとしている。この三年間、高校という人生の一期、私にとっていつたいなんだよ。一言でいえば、形式だけの高校生活だったと思う。満開の花の下で迎えた入学式。胸が高鳴り、希望に満ちあふれたはずなのに、期待は無残にもうらぎられたのです。高校生活において私の存在はただの傍観者にすぎなかつたからです。あらゆるもの、皆、よき指導者であった先生方の開いて下さった道をためらいもなしに進んだのです。自己をみづめ、死ぬほど自分がいやになつたのです。同窓会の諸先輩方に幸あれと祈ること



たり、自分の直面したすべてのものに疑問をもち、苦しみ悩む、そんな青春のひとこまがあつてもよかつたのは……。卒業を迎えるにあたり、これからが本当のたび立ち。こんな小さなひとにぎりの私たちも、人生の荒波に耐えることができるよう、青春のひとこまをつくってくれたあの校舎、あの校庭から。そして今、私たちは、想い出深い感傷にみたされ、在校生諸君と

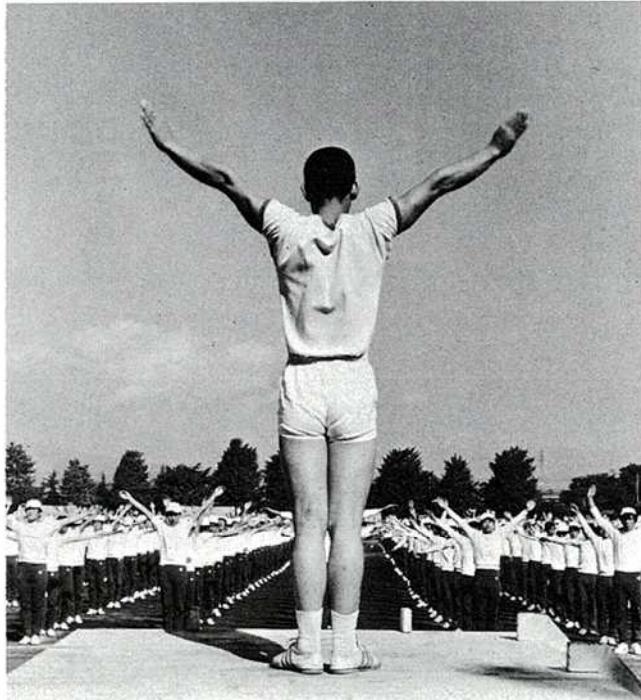
躍進する仲間

二期 石原重則氏

ここに石原重則氏を紹介しよう。男子たるもの一生にあって何か事を起そと考へるものである。それが学問であつたり、社会的地位であつたりもする。ここに登場する石原氏は自分の力を試すことからゼロより出発の事業を試みた。

彼は私達と同様に母校卒業後進学をした。そして卒業後地富士に帰りサラリーマンとしての道を歩んだ。しかし彼はそれには満足しなかった。高校時代は柔道部に属し主将として活躍した。そしてそこでたくましい体力と精神力を備えた。この体力と精神力をもって地元の産業、製紙に関連するものを中心とする印刷業を特に資本金もなく大きな借金を背負って手伝いの友と踏み出したのが丁度四年前、今では一〇人の従業員と建坪一五〇坪程規模をもつ総合印刷所として軌道にのり拡大の一途である。三〇歳にして二児の父親であるとともに従業員の前に自から率先して仕事にあたり、従業員思いの若き経営者の一人である。

頑張れ石原君！



後輩はつづく

三期 望月章介氏

本校三回生の代表として望月章介氏をご紹介いたします。

在学中の彼を知る多くの友達は異口同音に『真面目で大人しい』という印象を強くもっています。

高校課程で中だるみと称される二年生の時、教室内では暴れる者、大声でわめく者、大いびきをかいて安眠にひたすら時間を浪費する者などの中、着々と英単を覚え、数学の問題を解くといった勤勉な態度をしっかりととることができ

三、大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程終了。「超高压力の発生とその圧力下における酸化物の物電気的性質の計測」を現在継続中。

また、社会に出て彼以上の活躍する者が数多く出て欲しいと願つて、これより望月氏の経歴を紹介させていただきます。

一、日大文理学部物理学科卒業

二、金沢大学大学院理学研究科修士課程終了。

た彼の性格が今日の『彼』を築き上げたといつても決して過言ではありません。

飛躍する我が校より彼に続く者、また、社会に出て彼以上の活躍す

想高校時代を想う

七期 笠山ゆりえ

「日に日に新たに文華の」のメロディーが流れ、満開の花の下で迎えた入学式から始まつた高校時代を思い出す時、頭に浮ぶ一つの事は、みんなこのメロディーに包まれているようです。

貴重な高校時代の三年間をどんなに過していたのかしら、と改めて考えてみると何かとても時間といふものに対して鈍感に過してしまった、という思いと大変暖かい気持ちを持った人間関係の中に過ごす時間が出来たという二つの思いが浮んでまいります。十六才から十八才のたつた三年間しかない貴重な時間がもつと自分から体当りして費やさなければいけなかつたのはとも思います。常に樂観的態度で物事に接していたように思われますし、与えられたものだけを消化してなんとなくふんわりと通過してしまいました。これから先に伸びるステップ段階の中で一番大切な高校時代を知的な面では勿論のこと、情的な面でも常に自分で多くの機会を与えるよう自らを引っぱつて行くような高校生でありたかったと思います。多くの面で立派な設備や良き指導者がいらつしやつたのに、なにかとも静かな傍観者だったよう思われ、残念な気持ちがしてしまいます。

一方、生徒会活動を通じての私を考へて見る時、「思い出」といえる高校生活の糸を引き出す事が

出来るよう思います。三年間を通してクラスの委員をしてしまつたので、幸い直接生徒会活動に加わる事が出来、一年の時は、二・三年の人の活動を観察しながら、二年の時は少しずつ仕事を任せられながら、そして三年の時は自分が手で多くの事を進めました。

夜遅くまで残つて準備を進めた文化祭、スポーツ大会、小さな一室で考へた規約改正、少しでも多くの予算獲得しようと皆んな必ず予算折渉、そして先生方の人間味あふれた御指導、一日が終つても暗くなつた銀杏並木の下を帰る時の爽やかさ、今でもこれら一枚一枚のページをしっかりと開くことが出来ます。

このように思ひ出してみると私の高校生とは少し気合に欠け、のんびり過した日々と自治活動を通じて動き廻つた日々が入り混つたよ

うなもののが、あのメロディーに包まれながらやはり懐しいページとして甦つて来ます。

私の好きな言葉に「求めよ、さらば与えられん」という言葉があら

るのです。ほんとうに何事も本人から求めなければ得られません。

若きに満ち可能性に満ちた素晴らしい高校時代を前向きに、一日一日を精一杯、しかも楽しく過せたらどんなに良いことでしょう。そしていつまでもあの清潔な礼儀正しさを忘れないでいたいと思います。

同窓会に想う

同窓会顧問 橋 和彦



二、三年前から、本校同窓生諸君の努力によって、十支部ができ、その基礎ができたことを心から喜ぶものである。これからはそれをどのように発展させて行くかといふことがわれわれの課題である。歴史は転換する。そして社会は流動する。とくに戦後の日本においては思い掛けないことがいろいろ起る。戦争に負けてわれわれはどうなることかと虚脱状態に陥った。しかし日本は、朝鮮やベトナムや、ドイツのように分割占領されることがなく経過したのは幸であった。そして、われわれは朝鮮動乱を契機として経済復興の資本を得て、技術改革をなしとげ、高度成長の結果、自由諸国中GDP第二位の地位を確保した。ここまではよかつた。しかし高度成長は一方で公害や自然破壊をもたらすことが問題になってきた。そこに降つて湧いたように起つて来たのが石油危機である。

まさにわれわれは大海中の暴風雨に操られている小舟のようだ。そういう存在である。そういうたよ

りない存在の中にはつてわれわれの心のよりどころになってくれるものは疾風怒濤の時代を友情の糸で結びあつた同窓の連りであろうと思う。社会の中にでて行くとわれわれは社会の仕組の中に組み込まれてしまつて、自分の周囲はすべて競争の中の連帶で、そこを支配するのは、冷たい合理性である。すなはちわれわれは分業的・社会の中で、人情家になる前に機能的モーレツ社員が要求される。しかしそういう環境の中で、同窓生に会うと、学窓時代の昔にすぐ帰つて、何の警戒もなく、打ちとけあって、日頃の愚痴を洩し、昔の楽しかったことを懐しがる。そういう出会いの間に、明日に生きる力をお互いに与えあつて別れるのである。

卒業して四、五年の間は、多数の人混みのなかから学友の識別ができるけれど、それ以後になるとなかなか識別ができなくて、そういう精神的な慰みがほしいときもまたならぬことが多くなる。

そういう意味からいっても、流動的な社会の合理性に疲れやすいわれわれは、生きる力の源泉としての同窓会の会合をたびたび開いて、利害関係のない学窓時代の人情的な連りを大切にときどき会つて、言いたいことを言い合おうではないか。

母校も創立十五周年となりました。そこで、創立当初より現在までつながりにわたり、母校でご教鞭をとつていらっしゃいます恩師の三先生に、当時の想い出の一端を異なった角度からお話を伺いました。

授業中の想い出

中神義夫先生

一期生が二年の時であろうか、数学IIの授業を文系のクラスで午前中四時間ぶつ続けにやつた事があつた。

私は教務で補欠授業割当の係をしていた関係上休まれた先生の授業をもらい午前中四時間うめ授業にのぞんだ。もともとそのクラスは他のクラスより進度がおくれていたので、そうした事もあるが、予想以上に進んで二十ページ、私は夢中で授業を進めたが生徒の方には大変迷惑だったようで、あとで聞いたことだが六时限目位になるともう思考を展開するどころかノートをとるのに精一杯だったよ。

授業・クラブでの想い出

田上清美先生

演劇の単元の時間に、一期生の諸君と教科書の脚本のセリフを（配役をきめて）一緒に朗読し、テープレコーダーに録音して、各学級のみんなと聞いたことなどです。

又クラブでは、一年生（一期生）だけで、文芸部の部誌「道」を創刊するため、夜遅くまで原稿の編集をし、その創刊号を手にした時の喜びは今でも忘れられません。

また、庭球部の監督をした三年間、土・日曜日はもちろん、春・夏・冬の休み中も練習と試合で殆ど休めなかつたこと。そして毎日ノートをとるのに精一杯だったよくなり、自分の時間が殆ど持てない存在でした。

一生懸命にノートを取つてゐる徒諸君を見たとき、私は本校教師になったよろこびを感じた事が今までさまざまと思いおこされる。

現在は色々な職場で中心的に活躍していることであろうが、あの高校時代の根性で誠心誠意がんばつてほしいものである。

同窓生に想う

白井将一先生

今年も多くの受験生を迎えて本校の入学試験が行われる。入試といえば、たしか一・二期生の頃の校内掲示による入試合格者の発表の情景が想い出される。毛筆で、

卷紙に書き連ねられた二百有余名の合格者氏名を見渡して、きびしい試練を乗り越えた者達への、将来の飛躍的な成長に、大きな期待感をいたしたものである。

創立以来十五年、学校規模の大と共に入試合格者の発表はすべて郵送形式に統一されたが、昔の掲示発表のような実感は得られなくなつてしまつた。

創立以来十五年、学校規模の大と共に入試合格者の発表はすべて郵送形式に統一されたが、昔の掲示発表のような実感は得られなくなつてしまつた。

同窓生の皆様、懐旧の想いも新たにご覧いただけましたでしょうか。各先生方今なお元気に後輩の指導に励んでいらっしゃいます。なお、各先生には、お忙しい中原稿を無理をお願い致しました。

お詫び申上げます。

懐旧の想い新たに

— 恩師に語つていただき —

しかし、県大会の苦しい試合を勝ち抜いて、県代表としてインターハイに二年連続出場したことはいかにも自分の全力を出してがんばったことです。

勉強でもスポーツでも何でもい

いから自分の全力を出してがんばった喜びでした。

しかし、一言の不満のべず、

母校だより

四月	式式業学始入	十 月	生徒会長選出 研究授業 交通安全教室 スポーツテスト
五月	研 究授業 交通安全教室	十一 月	修学旅行(2年) 日大付属高等学 校統一試験(3年)
六月	足 遠保護者懇談会	十二 月	終了式 保護者懇談会(3年) 冬休
七月	式式業休	一 月	冬始 休業者懇談会(1・2年)
八月	夏休み	二 月	卒業生送別会 高校入試
九月	式祭業陵	三 月	卒修業了

昭和四十八年四月より四十九年三月までの行事は右の通りである。以上の様になるが、次に主なものについて少々説明を加えてみることにする。

まず最大の行事である桜陵祭は九月二十一日～二十三日の三日間にわたり開催された。毎年桜陵祭のテーマを決めているが本年度は創立十五周年にあたるので統一テーマを「伝統と躍進」と設定した。第一日目は体育大会の予定であったが雨天のため開会式が行なわれただけであった。

第二日目は、学級発表会、一年は合唱コンクール、一年は仮装行列、が行われ、それに展示会、公演会が行われた。

第三日目は、三年の学級発表会の農兵節踊り、展示会、公演会が行われた。

昭和四十八年四月より四十九年三月までの行事は右の通りである。以上の様になるが、次に主なものについて少々説明を加えてみることにする。

以上のように学級、クラブを中心で、十五周年にふさわしく盛大に行われた。

また十一月の修学旅行も、「生徒の視野を広める」という目的のもとに行なわれた。この旅行は一生に七泊八日の日程で九州一周の旅行が実施された。この旅行は一生の想い出となることであろう。

五月と十月には研究授業が行われ、指導の方法、生徒の学力向上について研究がなされ、特に五月の場合には、八月末の教職員研修会において活発な議論がなされ、今後の発展が期待される。

する三年生が参加し、猛暑の中を真剣に受講していた。そして十一月の統一試験では昨年を上まわる良い成績を示し、大いに進学が期



母校の徽章

待される。

五月と十月の交通安全教室では、

三島警察より講師を招き、スライドなどを使用し、激増する交通事故などに對処してゆく方法、

故、違反などに對処してゆく方法、心構えなどを身につけた。

以上で本年度の主な行事についての説明は終るが、各クラブの活動成績を記しておく。

本年度も各クラブが立派な成績を収めているが、特に、囲碁将棋部は全国高校将棋選手権大会において入賞し、放送部は、NHK全

国学校放送コンクールにおいて第3位に入賞、第十一回全国高校放送コンテストで第二位に入賞した。

また運動部では八月のインター

ハイに、バスケット部、柔道部、陸上部、庭球部、卓球部、水泳部

が参加し、それぞれ母校の名のもとに活躍した。特に水泳部の三浦君は二百米平泳に第三位に入賞した。またスケート部も全国大会、

国体に参加しその活躍が期待される。

二、幹事会 第一回 七月二日「ラペー」

旅費規定、十五周年記念行事等。

第二回 十月十日「じゅん」

記念行事、資金カンバ、会報の件等。

第三回 十二月二十三日「嵯峨沢館」。

忘年会

本年度の事業は十五周年記念行事としていることで、母校記念行事への参加ということが最大であった。

記念誌「希望の森」への参加がこの中でも同窓会として意義深い事業として、実績を残す事ができた。

又本年度は内容の充実という事で縦と共に横の同窓会が開かれたと

いう事は明るい事である。来年度は更に内容の充実と各支部活動の充実を目指し地味ながら堅実に發展する事を目標としたい。

（二期三田村記）

昭和四十八年度

事業報告（事務局）

島田代グリル)。

3 土木科総会(十一月、沼津桃中軒)。

4 電気科総会(十月、母校食堂)。

5 建築科同窓会入会式(三月、母校)。

6 機械科決成準備会(九月、母校)。

7 各支部総会及び事業。

8 事務局組織の作成。

9 その他

第一回 七月二日「ラペー」

旅費規定、十五周年記念行事等。

第二回 十月十日「じゅん」

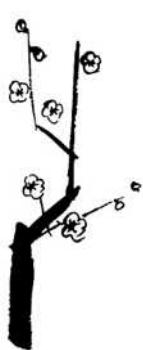
記念行事、資金カンバ、会報の件等。

第三回 十二月二十三日「嵯峨沢館」。

忘年会

1 記念事業「希望の森」各支部広告料。

小田原支部一万五千円、沼津支部二万円、三島支部二万五千円、熱海二万五千円、富士宮二万五千円、静岡支部三万円、清水支部二万円、田方支部二万五千円、富士五万五千円、合計二十四万円。



日本大学三島高等学校

同窓会規約

第十三条 の他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。
幹事会は常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員ならびに常任幹事によつて構成され、必要により幹事会にかえることができる。

第十四条 幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

第三節 支部会

第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第四節 事務局

第十六条 事務局は幹事会のものもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める事務局は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第五節 編集委員会

第十七条 編集委員会は幹事会に所屬し、原則として年度一回の会報発行、その他、本運営上、必要な広報の任にあたる。

第六節 役員会

第十八条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第七節 会員会

第十九条 会員会は左記の役員を置く。

第八節 会計

第二十条 会計監査は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第九節 会員登録

第二十一条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十節 会員登録

第二十二条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十一節 会員登録

第二十三条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十二節 会員登録

第二十四条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十三節 会員登録

第二十五条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十四節 会員登録

第二十六条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十五節 会員登録

第二十七条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十六節 会員登録

第二十八条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十七節 会員登録

第二十九条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第十八節 会員登録

第三十条 会員登録は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。

第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。

第三条 本会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもつて正会員とし、現教職員および元教職員をもつて特別会員とする。

第四条 本会は、母校建学の精神にのつとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することをもつて目的とする。

第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事

二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加

三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

一、総会 二、幹事会 三、支部会 四、事務局

五、編集委員会

六、幹事会

七、会員登録

八、会員登録

九、会員登録

十、会員登録

十一、会員登録

十二、会員登録

十三、会員登録

十四、会員登録

十五、会員登録

十六、会員登録

第十九条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十一条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十二条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十三条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十四条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十五条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十七条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十八条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二十九条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

三十条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

編集後記

（懇親会）

一年は早いものである。会報発行の時期になつてそのじめをつけなければならない。同窓会活動は、時として精神活動で終る。本来はそれでよいのだろうが、現状では、それを育てる基盤ができたばかりである。せつかできた基盤なら大切にしたいという気持ちがこの会報に現われている。

会長の「いそぐな休むな」を合言葉に、この会報を継いでゆきたるものである。

▼母校では「校歌」を募集しています。

日大三島高校独自の学風・環境等を織り込んで、作詞、作曲をして下さい。同窓生の手で創作しようではありませんか。

尚、作品は同窓会事務局宛にお送り下さい。

昭和四十八年度
日本大学三島高等学校
「同窓会総会」開催
期日：朝日新聞紙上掲載
場所：母校八号館食堂

（総会）
一、事業報告
一、会計報告
一、事業計画
来年度予算

（懇親会）
クラスメイトなどお説いのうえ、多数ご出席下さい。